

現代社会における断片的な人間関係について

—在日留学生に対する調査から—

ZHANG QIYANG

これまでの社会学には、コミュニティと人々の紐帯と共同体のつながりなどのテーマについての研究が古くから蓄積されている。そして、インターネットに基づいた携帯端末やソーシャルアプリなどにより、人間関係が断片にされてしまっているとする「人間関係の断片化」の観点からの研究も増えている。社会学においては、現実環境の人間関係の紐帯が「社会の都市化」によって変容したという主張からはじまり、現在では、「社会の情報化」による対人連帯意識の個人化をめぐる研究の潮流が台頭してきている。

しかしながら、これまでの日本または中国の研究においては、現実環境またはインターネット環境の一方に限られた視点のみで検討されてきたことが多く、さらには研究の着目点も連帯のあり方の変容に関わるデータが分析されてきたが、現実環境とインターネット環境の双方を視野に入れ、人間関係における選択性や互酬性についての意識など個人の連帯意識の変容に着目した検討が十分に行われてこなかった。

そこで本稿では、「断片的な人間関係」にあると想定される「在日留学生」を主な対象とし、友人関係の実態についての質問紙調査を行った。留学生の連帯意識の諸側面（選択性および互酬性）の友人関係のあり方（友人の量および友人関係の信頼性）への影響についてモデルを作ることをとおして、現代社会において「断片的な人間関係」はどのような連帯意識の変容により形成されているのか検討を行った。

その結果、「在日留学生」において、文化環境の変化、地理的な連帯の喪失、情報機器への依存などにより、互酬性を重視して行われる人間関係の整理と選択から、「断片的な人間関係」のあり方が規定されていることが認められた。

キーワード: 在日留学生、断片的な人間関係、互酬性、連帯意識、因子分析、重回帰分析